

# 基礎看護学

## 目標 I 看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴
1. 看護の基本となる概念	A. 看護の本質	a. 看護の定義	基礎看護学① 1章-Ⅲ 看護とは何かを考える (P14~48)	
		b. 役割と機能	基礎看護学① 4章-I-A 看護の役割と機能とは (P116~118)	
		c. 職業としての看護	基礎看護学① 1章-I-B 職業としての看護 (P2~3)	
		d. 学問としての看護	基礎看護学① 1章-I 学問としての看護 (P2~5)	
		e. 看護の変遷	基礎看護学① 2章 看護の過去から現在まで (P51~82)	107-PM-38
	B. 看護の対象	a. 全体(whole)としての人間	基礎看護学① 3章-I-B 全体的存在としての人間 (P87~90)	
		b. 成長・発達する存在	基礎看護学① 3章-I-C 人間の共通性 (P90~100)	
		c. ニーズをもつ存在	基礎看護学① 3章-I-C-3-4 人間の基本的ニードと成長のニード (P97~100)	
		d. 生活を営む存在	基礎看護学① 3章-I-D-1 生活者としての人間 (P100~103), 基礎看護学④ 序章-I-B 社会における生活者としての対象者 (P3~4)	
		e. 適応する存在	基礎看護学① 3章-I-C 人間の共通性 (P90~100)	107-PM-33
		f. 社会・文化的存在	基礎看護学① 3章-I-D 人間の個別性 (P100~105)	
		g. ライフサイクルと発達課題	基礎看護学① 3章-I-C-3-3 成長・発達を理解するうえで役立つ理論 (P92~97)	108-PM-32
	C. 健康と生活	a. 健康のとらえ方	基礎看護学① 3章-II-A 健康とは何か (P105~110)	
		b. 健康の諸相	基礎看護学① 3章-II-A 健康とは何か (P105~110)	
		c. 健康への影響要因	基礎看護学① 3章-II-A 健康とは何か (P105~110)	
		d. 生活習慣とセルフケア	基礎看護学① 1章-Ⅲ-D-4 オレム：セルフケア不足を補う (P35~37), 3章-II-B-2 看護における健康の概念 (P111~112)	105-PM-43, 104-PM-76
		e. QOLの維持と向上	基礎看護学① 3章-II-A-1-2-2) ●QOL (P107~108)	
	D. 看護における倫理	a. 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	基礎看護学① 3章-II-A-3 基本的人権としての健康 (P110)	
		b. 医療の倫理原則	基礎看護学① 6章-Ⅲ-A-2 医学研究における歴史 (P197~200), C 医療倫理の4原則 (P202~204)	105-AM-5
c. 患者の権利と擁護		基礎看護学① 6章-II-B-2 専門職としての倫理 (P190~193)	107-AM-32	
d. 倫理綱領		基礎看護学① 6章-II-B-2-1 倫理綱領 (P190~193)		
e. 倫理的葛藤と対応		基礎看護学① 6章-IV-C-2 患者中心の看護を実践するために (P206~210)		
2. 看護の展開	A. 対象との関係の形成	a. 信頼関係	基礎看護学① 5章-Ⅲ 「看護師-患者」の援助関係と信頼関係 (P166~169)	
		b. 援助関係	基礎看護学① 5章-Ⅲ 「看護師-患者」の援助関係と信頼関係 (P166~169)	
		c. 協働関係	基礎看護学① 5章-Ⅲ 「看護師-患者」の援助関係と信頼関係 (P166~169), 基礎看護学② 2編-2章-VII-A 信頼関係の基本であるコミュニケーション (P190)	

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴
2. 看護の展開	B. 基盤となる思考過程	a. 根拠に基づいた看護 (EBN)	基礎看護学① 7章-III-C-1-1 根拠に基づく看護 (EBN) (P233), 基礎看護学② 序章-B-1 経験だけでなく根拠に基づいた看護技術へ (P6~7)	105-AM-37
		b. クリティカル・シンキング	基礎看護学① 5章-II-C-1-1 クリティカルシンキング (P153), 基礎看護学② 序章-A-3 看護過程の展開における看護技術の位置づけ (P5~6), 1編-1章-I-3 看護過程とクリティカルシンキング (P15~16)	107-PM-33
		c. 問題解決過程	基礎看護学① 5章-II-A 看護過程とは何か (P149~150), 基礎看護学② 1編-2章-III 計画 (P43~47)	
	C. 看護における連携と協働	a. 看護の継続性	基礎看護学① 4章-I-B 看護が機能する場 (P118~123)	
		b. 看護職間の連携と協働	基礎看護学① 4章-I-B-1-2 主な看護体制 (P119~120)	105-PM-36
		c. 多職種間の連携と協働	基礎看護学① 4章-II-B チーム医療 (P133~136)	105-PM-36
		d. チームでの活動	基礎看護学① 4章-II-B チーム医療 (P133~136), 統合と実践① マネジメント 1編-4章-F-1 チームカンファレンス (P70)	

## 目標 II

### 基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴
3. 看護における基本技術	A. コミュニケーション	a. コミュニケーションの構造とプロセス	基礎看護学② 2編-2章-V 看護とコミュニケーション (P179~183)	106-AM-37
		b. コミュニケーション技法	基礎看護学② 1編-2章-I-A-3-1) 面談による健康に関する反応・行動の観察 (P35~36), 2編-2章-VII 医療における信頼関係とコミュニケーション (P190~200), 3章-IV-A-2-1) 面接 (P228)	107-AM-35
		c. コミュニケーションに障害のある人々への対応	成人⑥脳・神経 2編-1章-III-E 「コミュニケーション」に生じやすい看護上の問題と視点 (P338~340)	105-AM-38
	B. 学習支援	a. 学習に関わる諸理論	基礎看護学② 2編-3章-I-C-3 学習理論 (P212~215)	
		b. 対象者に合わせた目標設定	基礎看護学② 2編-3章-IV-B 指導におけるアプローチの方法 (P232~235)	107-AM-73, 106-PM-80
		c. 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫	基礎看護学② 2編-3章-IV-A-2 指導方法 (P228~230)	107-AM-75
		d. 個別指導・集団指導の特性と適用	基礎看護学② 2編-3章-IV-B 指導におけるアプローチの方法 (P232~235)	107-PM-35
	C. 看護過程	a. 情報の種類・収集方法、情報の分析・統合	基礎看護学② 1編-2章-I アセスメント (P30~41), 統合と実践① マネジメント 2編-5章 1日の業務の組み立て (P81~99)	
		b. 看護問題の明確化と優先順位決定	基礎看護学② 1編-2章-I-B 看護上の問題(課題)を明確化していく段階 (P37~41), II 看護上の問題(課題)の特定(看護診断) (P41~43)	107-AM-33
		c. 看護目標の設定と計画	基礎看護学② 1編-2章-III 計画 (P43~47)	
		d. 実施	基礎看護学② 1編-2章-IV 実施 (P47~49)	
		e. 評価	基礎看護学② 1編-2章-V 評価 (P49~51)	

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴
3. 看護における基本技術	D. 看護情報管理	a. 医療情報と看護情報	基礎看護学② 1編-2章-I-A-1 どのような情報を収集するか (P30~32), 1編-3章-III-6 ケアプログラム: クリニカルパス (P81)	106-AM-38
		b. 看護における情報管理	基礎看護学② 1編-3章 看護記録 (P69~90), 統合と実践①マネジメント 1編-2章-III-B-4) 看護記録 (P40~41), 2編-5章-I-B-1 診療および看護記録 (P85~86)	106-PM-33
		c. 看護情報の記録・報告と共有	基礎看護学② 1編-2章-IV-3 報告と記録 (P48~49)	
	E. フィジカルアセスメント	a. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義	基礎看護学② 2編-1章-II フィジカルアセスメントの基本 (P93~131)	105-PM-73
		b. 医療面接(インタビュー、問診)	基礎看護学② 2編-1章-II-B フィジカルアセスメントにおける基本技術 (P97~100)	
		c. 身体診察(視診、触診、聴診、打診)の基本	基礎看護学② 2編-1章-II-B フィジカルアセスメントにおける基本技術 (P97~100)	108-AM-38, 107-AM-34
		d. 全身の診察(全身の観察、バイタルサイン)	基礎看護学② 2編-1章-II-B フィジカルアセスメントにおける基本技術 (P97~100), II-C 一般状態のアセスメント①: バイタルサイン (P100~122)	
		e. 系統別のフィジカルアセスメント	基礎看護学② 2編-1章-III 系統的なフィジカルアセスメントの実践 (P131~159)	108-AM-36
	F. 感染防止対策	a. 感染の成立と予防	基礎看護学② 2編-4章-I 感染と感染予防策の基礎知識 (P240~247), II 感染予防における看護師の責務と役割 (P248~249)	107-PM-36
		b. 標準予防策(スタンダードプリコーション)と感染経路別予防策	微生物学 6章-II 感染制御対策 (P142~149), 基礎看護学② 2編-4章-I-2 感染予防策の基礎知識 (P242~247), II 感染予防における看護師の責務と役割 (P248~249), 統合と実践①医療安全 2章-III-C 標準予防策と感染経路別予防策 (P231~232)	108-PM-33
		c. 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作	基礎看護学② 2編-4章-III 感染源への対策 (P250~260), IV-A 手洗い (P261~267), IV-C 滅菌物の取り扱い (P274~280)	
		d. 感染性廃棄物の取り扱い	基礎看護学② 2編-4章-IV-D-2 感染性廃棄物の取り扱い (P282~287)	104-AM-39
		e. 感染拡大の防止の対応	基礎看護学② 2編-4章-IV-D 隔離法および感染源の拡散防止 (P280~288)	106-AM-97, 105-AM-101
	G. 安全管理(セーフティマネジメント)	a. 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント)	基礎看護学② 2編-5章 安全管理の技術 (P295~324), 統合と実践①医療安全 1章-IV 組織としての医療安全対策 (P168~173)	
		b. 誤薬の起こりやすい状況と対策	基礎看護学② 2編-5章-III-B 誤薬防止 (P304~308), 基礎看護学③ 5編-3章-I-B 薬物療法における看護師の役割 (P284~285), C 薬物療法を受ける患者の援助 (P285~287), 統合と実践①医療安全 2章-II-B 与薬(内服薬・注射・点滴)に関するインシデントと事故防止対策 (P186~191)	
		c. 転倒・転落の起こりやすい状況と対策	基礎看護学② 2編-5章-III-D 転倒・転落防止 (P312~314), III-E 療養環境における危険防止 (P314~315), 統合と実践①医療安全 2章-II-K 転倒・転落の事故防止対策 (P219~224)	
		d. チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策	基礎看護学② 2編-5章-III-C ライン・チューブトラブル防止 (P309~312), 統合と実践①医療安全 2章-II-I ライン・チューブ・カテーテル関連のインシデントと事故防止対策 (P213~217)	104-PM-42
		e. 針刺しの起こりやすい状況と対策	基礎看護学② 2編-4章-IV-E 針刺し・切創・血液曝露事故防止 (P288~290)	

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴
3. 看護における基本技術	H. 安楽の確保	a. 安楽の概念	基礎看護学② 2編-6章-I 看護における安楽の意義 (P326~327)	
		b. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用	基礎看護学② 2編-6章-III ボディメカニクスの基本 (P334~342), 基礎看護学③ 4編-4章-IV-A-2 体位変換の留意点 (P119~121)	107-AM-37
		c. 安楽な姿勢・体位の保持	基礎看護学② 2編-6章-II 安楽な体位の保持 (P328~334)	105-PM-39, 104-PM-41
		d. 安楽を提供するためのケア(マッサージ、痛みの軽減、電法)	基礎看護学② 2編-6章-IV 様々な安楽確保の技術 (P343~350)	
		e. 安楽を保つための療養環境の調整	基礎看護学③ 4編-1章 環境を整える技術 (P1~21)	
		I. 終末期のケア 104-AM-37	a. グリーフケア	基礎看護学② 3編-2章-II-D-4 遺族へのケア (P385~386)
		b. 死亡後のケア	基礎看護学② 3編-2章-II-D 死後のケア (P380~386)	108-PM-34, 104-PM-43
4. 基本的日常生活援助技術	A. 環境の調整	a. 環境調整の意義	基礎看護学③ 4編-1章 環境を整える技術 (P1~21)	
		b. 療養環境のアセスメント	基礎看護学③ 4編-1章 環境を整える技術 (P1~21)	
		c. 療養環境の調整と整備	基礎看護学③ 4編-1章-II 病室と病床の環境調整 (P9~20)	
	B. 食事と栄養 106-AM-41, 104-AM-41	a. 食事と栄養の意義	基礎看護学③ 4編-2章-I-1 食事・栄養摂取の意義 (P24)	
		b. 健康な食生活と食事摂取基準	基礎看護学③ 4編-2章-II 食事・栄養摂取のアセスメント (P25~32)	
		c. 治療食、療養食	基礎看護学③ 4編-2章-III-A 医療施設で提供される食事 (P32~34)	
		d. 食事と栄養に影響する要因	基礎看護学③ 4編-2章-II 食事・栄養摂取のアセスメント (P25~32), III 患者への食事の援助 (P32~37)	105-PM-72
		e. 食事と栄養のアセスメント	基礎看護学③ 4編-2章-II-1 栄養状態のアセスメント (P26~27)	108-AM-90, 108-PM-35
		f. 食事摂取の自立困難な人への援助	基礎看護学③ 4編-2章-III-B 経口摂取できる患者の食事介助 (P34~37)	
		g. 嚥下障害のある人への援助	基礎看護学③ 4編-2章-III-B 経口摂取できる患者の食事介助 (P34~37)	105-PM-40
		h. 経管・経腸栄養法	基礎看護学③ 4編-2章-IV 経腸栄養 (経管栄養) (P38~49)	107-AM-36
		i. 経静脈栄養法	基礎看護学③ 4編-2章-V 中心静脈栄養 (P49~53), VI 末梢静脈栄養 (P53~56)	
	C. 排泄	a. 排泄の意義	基礎看護学③ 4編-3章-I-1 排泄の意義と援助の基本 (P60)	
		b. 排泄に影響する要因	基礎看護学③ 4編-3章-II 排泄のアセスメント (P64~65)	
		c. 排泄のアセスメント	基礎看護学③ 4編-3章-II 排泄のアセスメント (P64~65)	106-PM-36
		d. 自然な排泄を促す援助	基礎看護学③ 4編-3章-III 排泄の援助 (P65~75), 4編-3章-IV 排便障害のある患者の援助 (P75~83), V 排尿障害のある患者の援助 (P83~86)	
		e. トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助	基礎看護学③ 4編-3章-III-A トイレを使用した排泄の援助 (P66), B ポータブルトイレを使用した排泄の援助 (P66~68)	107-PM-37
		f. 床上での排泄の援助	基礎看護学③ 4編-3章-III-C 差し込み便器を使用したベッド上での排便の援助 (P68~71), D 尿器を使用したベッド上での排尿の援助 (P71~73), E おむつ交換 (P73~75)	105-PM-38

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴
4. 基本的日常生活援助技術	C. 排泄	g. 自然な排泄が困難な人への援助	基礎看護学③ 4編-3章-IV 排便障害のある患者の援助 (P75~83), V 排尿障害のある患者の援助 (P83~86), 4編-3章-VI-A 洗腸(P86~91), B 摘便 (P91~92), C ストーマケア (P93~99), D 一時的導尿 (P99~103), E 持続的導尿 (留置カテーテル法) (P103~105)	108-PM-104, 105-AM-71, 104-PM-44
		h. 尿失禁・便失禁のある人への援助	基礎看護学③ 4編-3章-IV-C 便失禁 (P81~83), V-A 頻尿と尿失禁 (P83~85)	107-AM-31
	D. 活動と運動	a. 活動と運動の意義	基礎看護学③ 4編-4章-I-A 人間と運動 (P108~110)	
		b. 活動と運動に影響する要因	基礎看護学③ 4編-4章-II 活動のアセスメント (P111~114)	
		c. 活動と運動のアセスメント	基礎看護学③ 4編-4章-II 活動のアセスメント (P111~114)	106-AM-39
		d. 活動と運動を促す援助	基礎看護学③ 4編-4章-III 運動機能の維持・回復のための援助 (P115~118), IV-A 体位変換 (P118~130), B 車椅子・ストレッチャーでの移動の援助 (P130~138), D 歩行の援助 (P140~142)	106-AM-42, 106-PM-34
		e. 療養生活におけるレクリエーション	精神看護学② 8章-VI-C レクリエーション療法と指導上の注意点 (P279~281)	
	E. 休息と睡眠	a. 休息と睡眠の意義	基礎看護学③ 4編-4章-I-B 人間と休息 (P110~111)	
		b. 休息と睡眠に影響する要因	基礎看護学③ 4編-4章-VI 睡眠の援助 (P143~147)	107-PM-39
		c. 休息と睡眠のアセスメント	基礎看護学③ 4編-4章-VI 睡眠の援助 (P143~147)	105-PM-37 ▲
		d. 休息と睡眠を促す援助	基礎看護学③ 4編-4章-VI-4 睡眠の援助 (P147)	108-AM-39, 105-PM-37 ▲, 104-PM-40
	F. 清潔と衣生活	a. 清潔と衣生活の意義	基礎看護学③ 4編-5章-I 清潔の意義 (P150~155), X-A-1 衣生活の意義 (P182)	108-PM-36
		b. 清潔と衣生活に影響する要因	基礎看護学③ 4編-5章-I-2 清潔援助の対象とアセスメントのポイント (P150~151), X-A-2 療養に適した衣服の条件 (P183~184)	107-AM-38
		c. 清潔と衣生活のアセスメント	基礎看護学③ 4編-5章-I-2 清潔援助の対象とアセスメントのポイント (P150~151)	
		d. 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助	基礎看護学③ 4編-5章-II 入浴 (P155~160), III 手浴 (P160~163), IV 足浴 (P163~166), V 陰部洗浄 (P166~168), VI 全身清拭 (P168~173), VII 洗髪 (P174~177), VIII 口腔ケア (P177~181), X 衣生活 (寝衣交換) (P182~189)	108-AM-40, 106-AM-43, 104-AM-40, 104-PM-45
5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	a. 呼吸・循環・体温調整のアセスメント	基礎看護学③ 5編-1章-I-B-1 呼吸状態のアセスメント (P197~198), VIII-A 体温管理・保温の基礎知識 (P242~243)	
		b. 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	基礎看護学③ 5編-1章-II 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 (P198~200)	108-AM-41
		c. 血圧・血流を保持する姿勢	基礎看護学② 2編-6章-II-B 安楽に体位を保持する方法 (P333~334)	104-AM-42
		d. 酸素吸入の適応と方法	基礎看護学③ 5編-1章-IV 酸素吸入療法 (P211~218)	108-PM-37, 107-AM-90, 104-AM-43
		e. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法	基礎看護学③ 5編-1章-III-B 一時的吸引 (P202~211), V 胸腔ドレナージ (P218~221)	

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴	
5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	f. 排痰法の適応と方法	基礎看護学③ 5編-1章-Ⅲ 気道分泌物の排出の援助 (P200~211)		
		g. 体温調整のための方法	基礎看護学③ 5編-1章-VIII-B 冷罨法 (P243~245), VIII-C 温罨法 (P246~247)	105-AM-42, 71	
	B. 皮膚・創傷管理	a. 創傷の治癒過程	基礎看護学③ 5編-2章-I-3 創傷の治癒過程 (P254)		107-AM-74
		b. 創傷のアセスメント	基礎看護学③ 5編-2章-II 創傷の観察 (P255)		
		c. 洗浄、保護、包帯法	基礎看護学③ 5編-2章-Ⅲ 創傷の処置 (P256~267)		105-PM-84
		d. 褥瘡の予防と治癒の促進	基礎看護学③ 5編-2章-IV 褥瘡の予防 (P267~274)		107-AM-76
	C. 与薬	a. 与薬における看護師の役割	基礎看護学③ 5編-3章-I-A 薬物療法の理解 (P278~284), B 薬物療法における看護師の役割 (P284~285)		
		b. 薬剤の種類と取り扱い方法	基礎看護学③ 5編-3章-II 経口与薬法 (P287~292), Ⅲ 外用薬の皮膚・粘膜適用 (P292~305), IV 注射法 (P306~336)		108-PM-38, 107-PM-40, 106-PM-34, 105-AM-90, 104-PM-90
		c. 与薬方法と効果の観察	基礎看護学③ 5編-3章-I-C-4 与薬後の観察 (P287), II 経口与薬法 (P287~292), Ⅲ 外用薬の皮膚・粘膜適用 (P292~305), IV 注射法 (P306~330)		106-PM-89.90, 104-PM-46
	D. 輸液・輸血管理	a. 輸液・輸血の種類と取り扱い方法	基礎看護学③ 5編-3章-V-A-1 輸血療法の適用と種類 (P336~337), <別巻>治療法概説 1編-1章-D 輸液療法 (P25~26)		
		b. 輸液・輸血の管理方法	基礎看護学③ 5編-3章-V-A-4 輸血療法の管理 (P339), <別巻>治療法概説 2編-6章-Ⅲ-3 創傷管理、ドレーン管理、輸液ライン管理(含、動脈ライン) (P284)		108-AM-42
		c. 輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察	基礎看護学③ 5編-3章-V-B 輸血療法の方法 (P339~344)		107-AM-39
	E. 救命救急処置	a. 生命の危機的状況のアセスメント	基礎看護学③ 5編-5章-I 救命救急処置の意義と目的 (P396), II-A 心肺蘇生とは (P396~397), II-B 心肺蘇生とAEDを用いた除細動 (P397~407)		
		b. 一次救命処置<BLS>	基礎看護学③ 5編-5章-II-B 心肺蘇生とAEDを用いた除細動 (P397~407)		107-PM-41, 106-PM-24, 104-AM-44
		c. 止血法	基礎看護学③ 5編-5章-Ⅲ 止血法 (P407~411)		106-AM-44
	F. 生体機能のモニタリング	a. 診察・検査時の看護師の役割	基礎看護学③ 5編-4章-I 検査に伴う看護の役割 (P350~351)		
		b. 検体検査(血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、骨髄液)	基礎看護学③ 5編-4章-II 排泄物の検査 (P352~355), Ⅲ 体液・組織の検査 (P355~374)		108-AM-37, 43, 104-PM-47
		c. 生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学)	基礎看護学③ 5編-4章-IV 生体検査 (P374~388)		107-PM-40, 106-PM-72, 104-AM-45
		d. 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO <sub>2</sub> >の測定、血糖測定	基礎看護学③ 5編-4章-IV-K パルスオキシメトリー (P388), L 生体情報モニター (P388)		107-AM-84, 105-AM-85
		e. モニタリング機器の取り扱い	基礎看護学③ 5編-4章-IV-L 生体情報モニター (P388), 基礎看護学④ 6章-医療機器使用の実際 (P356~387)		104-AM-38

## 目標Ⅲ

### 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	新体系看護学全書の該当箇所	過去の国家試験での出題履歴
6. 看護の役割と機能	A. 看護の場に応じた活動	a. 在宅における看護活動	基礎看護学① 4章-I-B-2 在宅における活動 (P121), 基礎看護学④ 序章-II-3 在宅における看護の特徴 (P12~13), 老年看護学① 5章-II 在宅看護 (P188~196)	
		b. 医療施設における看護活動	基礎看護学① 4章-I-B-1 医療施設における活動 (P118~121), 基礎看護学④ 序章-II-1 医療施設 (病棟)における看護の特徴 (P7~11), II-2 医療施設 (外来)における看護の特徴 (P11~12)	
		c. 保健施設と福祉施設における看護活動	基礎看護学① 4章-I-B-3 介護保健施設における活動 (P121~122), 老年看護学① 5章-III 施設看護 (P196~204)	
	B. 保健・医療・福祉の連携と継続看護	a. 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能	基礎看護学① 4章-II-B チーム医療 (P133~136)	
		b. 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	基礎看護学① 4章-II-C 地域包括ケアシステム (P136~142), 社会福祉 5章 社会福祉の諸制度と施策 (P134~192)	
		c. 施設内・施設間における継続看護	基礎看護学① 4章-II-B-2-2 チーム医療の意義 (P134~135), 老年看護学② 6章-V-A 高齢者と退院 (P206~207), V-B 退院する患者に対する看護の要点 (P206~207), 在宅看護論 3章-I-E 継続看護 (P105~106), F 退院支援 (P106~108)	